

# 令和6年度 木津川市地域で支える学校教育推進事業 総括 (木津川市地域学校協働本部)

## 環境整備支援

### ＜評価＞

- ・ 環境整備ボランティアの活動により、学校内外が常に整備されている。花壇の手入れや作物を育てる授業を通じて、子どもと大人、ボランティア同士の交流の場となっている。
- ・ 学校の手が行き届かない場所の整備や休校中の水やり等が実施されており、助けられている。



＜相楽小学校 環境整備＞



＜木津南中学校 休校中の水やり＞



＜泉川中学校校 環境整備＞



＜相楽台小学校 環境整備＞



＜棚倉小学校 環境整備＞



＜上狛小学校 遊具の塗装＞

## 図書室支援

### ＜評価＞

- ・ 現在9校で図書室の支援活動を実施。学校司書不在の日に、ボランティアが教員の代わりとして入り、休み時間や放課後の開室や貸出支援を行っている。これにより、児童・生徒がいつも図書室を利用できる環境が整い、読書の推進に繋がっている。
- ・ コーディネーターがボランティアのスケジュール調整を行い、スムーズに活動が進められている。また、ボランティアは、児童・生徒たちとの関わりを楽しみながら協力されている。



＜州見台小学校 図書室支援＞



＜木津南中学校 図書室支援＞



＜恭仁小学校 図書室支援＞

## 登校安全指導

### ＜評価＞

- ・ ボランティアは朝の忙しい時間帯や、寒い日、暑い日にもかかわらず、地域の児童の安全を守るために活動している。
- ・ 交通量の多い交差点での下校時の見守りで、児童が安心して下校することができた。





＜木津第二中学校 下校安全指導＞



＜州見台小学校登校 安全指導＞



＜棚倉小学校登校 安全指導＞

## 学習支援・体験活動・部活動指導

### ＜評価＞

- ・ 「昔遊び」「昔の暮らし」の授業支援において、地域コーディネーターは企画から、ボランティアの招集、高齢者への配慮、子ども達にわかるよう楽しめるようにと円滑に対応された。
- ・ 「交通安全教室」「自転車安全走行教室」では、警察署の指導のもと、交通安全協会員や保護者、ボランティア、コーディネーターが協力し、子ども達への指導補助を行った。
- ・ 加茂小学校では、学級園での植物の生育の観察や農業体験を実施。ボランティアは「さつまいもパーティ」に招待され、子ども達と収穫したさつまいもを使ったお菓子作りを楽しんだ。



＜州見台小学校 戦中・戦後の暮らし＞



＜加茂小学校 野菜を育てる授業＞



＜相楽台小学校 交通安全教室＞



＜木津小学校 昔遊びの授業＞



＜梅美台小学校 手芸クラブ＞



＜加茂小学校 さつまいも調理＞

## その他

- ・ 地域コーディネーターの配置人数は地域の実情に応じて異なるが、各校からの要請は、事業の浸透とともに年々増加しており、コーディネーターの役割がますます重要になっている。
- ・ 各学校では学校支援ボランティア等の地域の協力者に対し、感謝の集いの開催や、子ども達からのお礼の手紙や手作りの感謝状の贈呈など、感謝を伝える取組がされており、ボランティア活動者の励みになっている。
- ・ 地域コーディネーターは、資質向上を目的とした京都府主催の研修会へ経験年数に関係なく積極的に参加し、地域と学校の連携・協働に対する意識の高まりにつながっている。今年度初めて、情報交換を目的とした市地域コーディネーター研修・交流会を2回開催した。



＜木津川台小学校 昔遊び学習＞



＜州見台小学校 収穫体験＞



＜南加茂台小学校 収穫体験＞

## まとめ

- ・地域学校協働本部事業は、地域と学校が連携・協働し地域全体で子ども達の成長を見守る体制づくりを目指して2012年度に立上げられ、これまで、学校・地域の関係者各位の理解・協力と、多くのボランティアの支援協力により、各地域での認知が進んできました。
- ・地域コーディネーターは、自身の経験を活かして、学校とボランティアの調整役を担うだけでなく、自身が中心となって支援活動を実施されています。また、ボランティアが活動に気持ちよく参加できるよう、ボランティア間や学校との良好な関係作りを常に意識し、連絡や感謝の言葉がけなど細やかに配慮しながら、活動が円滑に進むよう尽力されています。
- ・令和7年度も引き続き地域コーディネーターを中心とし、地域全体に協力を呼びかけ、学校支援活動の充実を図ります。さらに、市内全校へのコミュニティ・スクールの導入が推進されており、地域の理解と協力が一層求められる状況となっています。

※上記で写真が掲載されていない学校でも、支援活動を実施しています。

## ●●● 令和6年度に重点的に取り組んだ内容 ●●●

課 題	ボランティア新規登録者はあるものの、高齢化等による辞退者も一定数あり、全体の登録者数が増えず、実働者が固定化しがちである。		
これまでの取組状況	令和4年度折込チラシを全戸配布し37名の応募があったが、年度末の更新確認で39名の辞退者があった。		
課題の解決のために令和6年度に実施した具体的な取組	事業周知方法の見直し。これまでのチラシ全戸配布による募集は経費削減のため取りやめ、市ホームページ、市公式LINE、電子申請システムを利用した登録案内で事業を周知し、ボランティア登録者の増加を目指した。		
達成する目標	要請項目ごと、教室ごとのボランティア協力者が増やし、体制を充実させることを目指す。		
達成度を測る指標	「ボランティア登録者数」		年度当初 336人
	目標値 360人		本年度実績値 349人
評価・分析	周知方法の直しや新聞掲載等により若い世代の登録も徐々に増えた。新規登録は35名あったが、高齢等による辞退者が22名あった。活動に携わる方の世代交代が徐々に進みつつあるといえるが、継続的かつ安定的な人材の確保が引き続き課題。また、応募者等から事業に関する問い合わせも多く寄せられたことから、学校や地域関係者の協力を受けながら、今後も一層の事業周知が求められると考える。		